

- 逆潮流
- 分散型電源
- 単独電源

「バンク逆潮流」

バンク逆潮流とは

配電用変電所に設置された変圧器(バンク)において、配電系統から送電系統へ向かって有効電力が流れることを言います。これは、配電系統における需要設備の負荷量よりも、分散型電源等による発電量が多い場合に発生します。

バンク逆潮流が発生すると、配電系統の電圧を適切に制御できなくなることや、送電線事故発生時に定められた時間内に事故を除去できなくなることから従来は認められていませんでした。現在では、電圧を適正に管理するための装置や、配電変電所に送電線事故を検出できる装置を設置することで上記の問題は生じないことが確認されたため認められています。

